

ほっかいっぱいみさきっ子

御前崎市立御前崎小学校 学校だより 令和3年度 12月号

まるで「賢者の贈り物」みたいなできごとでした

コロナで十分なかかわりができなかつた1年生を楽しませたいと、6年生が何度も話し合って「お楽しみ会」を企画してくれました。

11月、学校の中に本格的な迷路が出現しました。1年生は、学校をウイルスから守る勇者となり、ミッションをクリアしながら迷路にたどり着き、みごと御前崎小学校を救ってくれました。

迷路だけでなく、衣装や壮大なオープニング動画まで作った6年生。



↑6年生お手製、勇者衣装



宿題ではないのに、絵日記を描いた1年生

その後、1年生が生活科の学習で準備を進めてきた「あきべや」に、6年生を招待しました。私は、先日の「お楽しみ会」のお礼だと思ったのですが、そうではなかったのです。

9月に、秋探しに出かけた1年生ですが、その時から「6年生のために何かしたい」という思いで、「6年生をあきべやに招待する」準備を進めて来たのだそうです。6年生は1年生を、1年生は6年生を思い、お互いがお互いを喜ばそうと計画していたこと、まるで、「賢者の贈り物」のお話みたいな

状況でした。「ほっかい」の集大成です。

この迷路は、他学年も楽しませてもらいました。3年生の日記には、「迷路がすごく楽しかった。3回もやってしまった。」「6年生ってすごい」「6年生にあこがれた」「自分もこんな6年生になりたい」などの言葉がいっぱいでした。

誰かの笑顔を幸せと感じる人に

どの子にも幸せな一生を生きてほしい、学校はそのための素地づくりをするところ、と私は思っています。「人は何を幸せと感じるか」については、哲学者や宗教学者、心理学者などが研究を重ねており、一言で言い切れる性質のものではありません。でも、少なくとも本校の子どもたちの、「誰かを喜ばせることで自分も幸せな気持ちになる」体験は、確実に子どもたちの幸せ探しを後押ししてくれると思うのです。

7月号で、i-check についてお伝えしましたが、同調査の項目に「ニュースなどで、戦争や災害、貧しさで苦しんでいる人々を見ると、心が痛みますか。」という質問があります。5年生の回答は、全国平均から10ポイントも高い94.3ポイントでした。御前崎小の子どもたちの優しさが、調査結果の数値でも証明されていました。

家庭で愛情深く生まれ、地域で温かく見守られ、御小の大きな特色であるほかほか班で、上級生に優しくされる嬉しさを味わいながら成長している御前崎小の子どもたちです。

子どもたちを取り巻く、ご家族や地域のみなさまに改めて感謝申し上げます。

子どもたちと周りのみなさんにとって、この年末年始が素晴らしいものになりますように。

(給食メニューに「大豆と煮干しの揚げ煮」があると幸せを感じる校長 仁平美和子)

